

環境・安全レポート

2022年



目 次

	頁
工場長のコメント . . .	2
三菱ガス化学の概要 . . .	3
四日市工場、浪速製造所及び佐賀製造所の概要 . . .	4
社会の中のMGC製品 . . .	5
RC・品質方針 . . .	6
RC品質活動計画 . . .	7
労働安全衛生 . . .	12
保安防災 . . .	15
環境保全 . . .	16
地域の皆様とともに . . .	21

工場長のコメント

三菱ガス化学グループは、化学に基づく幅広い価値の創造を通じて、中長期的に持続可能な社会の発展と調和に貢献することを追求しております。この姿勢をステークホルダーに明確に示すため、2020年3月、経営として取り組むべき4つの最重要課題（マテリアリティ）を取締役会メンバーで構成されるCSR会議にて特定しました。

その1つとして、「価値創造と環境保全の調和」を掲げております。具体的な取組みとして、レスポンシブル・ケア（RC）の中期計画と年度計画を策定し、またTCFD(*1)対応を含むGHG排出量削減に関してKPI(*2)を定めて、積極的・能動的に推進させています。

われわれ四日市工場、浪速製造所、佐賀製造所も、当該マテリアリティに取り組むべくRC・品質方針を定め、地域社会との共生を図るため、安全・安心操業を全員参加で行うとともに継続的改善を目指しています。

本レポートは、四日市工場3拠点の昨年一年間のRC活動の実績をご報告するものです。地域社会と共存すべく皆様にご信頼を賜り、社会に貢献できる工場であり続けるよう、これまでも増してRC活動を充実させていく所存です。

*1: TCFDとは、G20の要請を受け、金融安定理事会（FSB）により、気候関連の情報開示及び金融機関の対応をどのように行うかを検討するため、マイケル・ブルームバーグ氏を委員長として設立された「気候関連財務情報開示タスクフォース（Task Force on Climate-related Financial Disclosures）」を指します。

*2: KPIとは業務のパフォーマンスを計測・監視するために置く指標を指します。



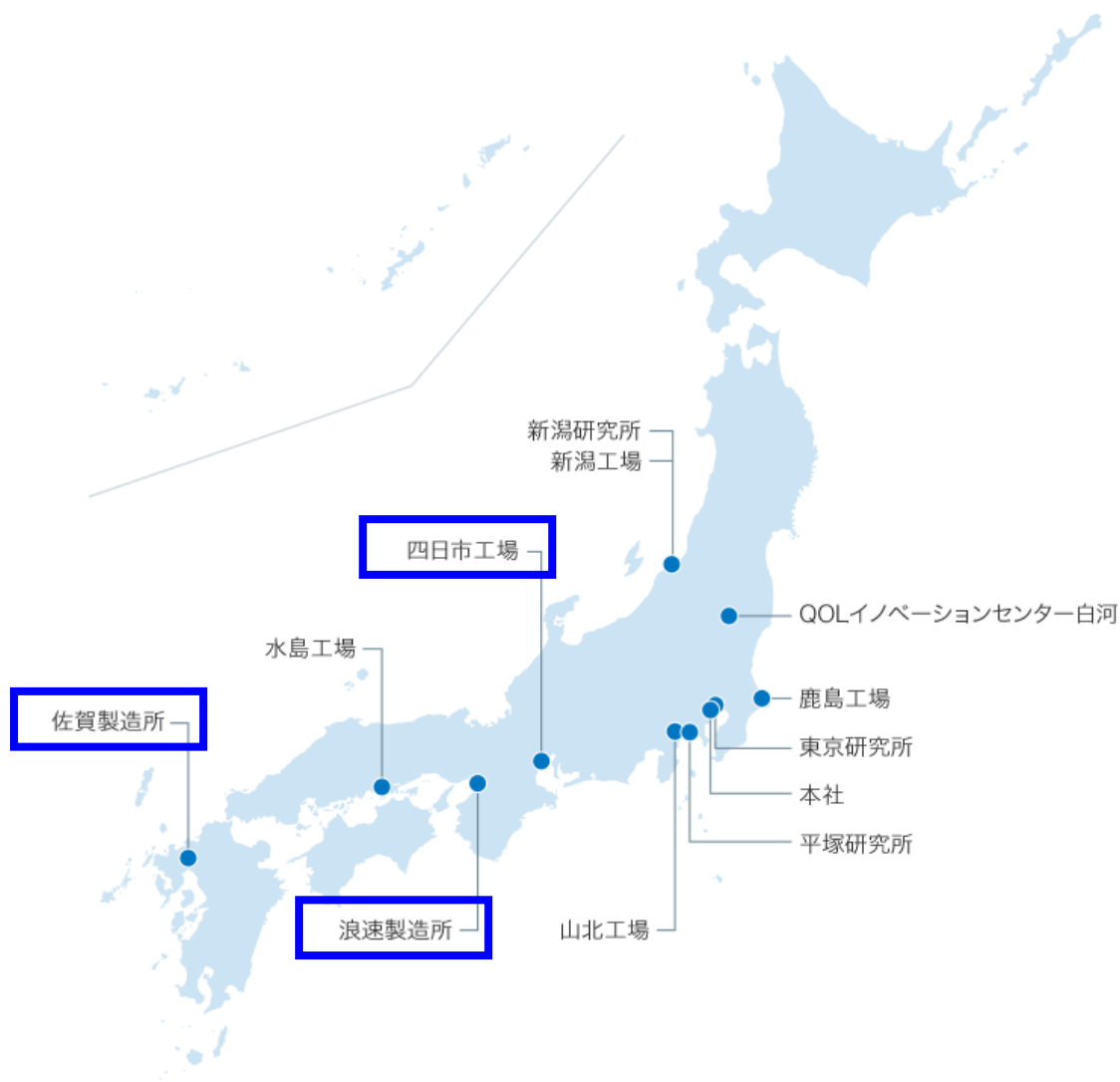
執行役員四日市工場長

松見恵明

三菱ガス化学の概要

社名 三菱ガス化学株式会社
本社所在地 〒100-8324 東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱ビル
創業 1918年（大正 7年）1月15日
設立 1951年（昭和26年）4月21日
資本金 419.7億円（2022年3月末現在）
従業員数 単体：2,461名、【連結：9,888名】（2022年3月末現在）

事業所 【研究所】 東京研究所、新潟研究所、平塚研究所
【工場】 新潟工場、水島工場、山北工場、鹿島工場、
四日市工場、浪速製造所、佐賀製造所
QOLイノベーションセンター白河



四日市工場、浪速製造所及び佐賀製造所の概要

【四日市工場】



所在地	三重県四日市市日永東2-4-16
操業開始	1963年
従業員数	194名（2022年10月時点）
敷地面積	185,000 m ²
主要製品	過酸化水素 超純過酸化水素 水加ヒドラジン ELMクリーン ポリアセタール樹脂 オリゴフェニレンエーテル

【浪速製造所】



所在地	大阪府大阪市大正区船町1-3-27
操業開始	1951年
従業員数	37名（2022年10月時点）
敷地面積	39,000 m ²
主要製品	レンズモノマー

【佐賀製造所】



所在地	佐賀県佐賀市富士町上熊川681-45
操業開始	1986年
従業員数	10名（2022年10月時点）
敷地面積	26,500 m ²
主要製品	超純過酸化水素

社会の中のMGC製品

家庭やオフィスにある身近な製品に、MGC四日市工場（浪速製造所、佐賀製造所を含む）製品が使用されています。



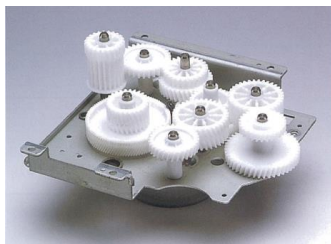
過酸化水素

紙パルプの製造工程で漂白するための原料として使用されています。

超純過酸化水素

ELM クリーン

電子機器に内蔵されている半導体製造時の洗浄剤に使用されています。

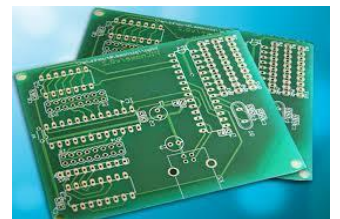


ポリアセタール樹脂

非常に滑りやすい（滑らかな）樹脂でOA機器の歯車の材料として使用されています。

オリゴフェニレンエーテル

高速通信用基板における積層板を作るための材料として使用されています。



水加ヒドラジン

エコタイヤの添加剤用原料、として使用されています。

レンズモノマー

メガネレンズに使用されています。屈折率が高いので薄くて軽いメガネになります。





RC・品質方針

三菱ガス化学株式会社 四日市工場は、社会との共生のため、
安全・安心・安定操業を目指して事業活動を展開します。

- 1 企業としての社会的責任を認識し、法令・規則・協定・
社会規範を順守します。
- 2 リスクアセスメントを実施し、無事故・無災害の継続
をめざします。
- 3 安定した高品質の製品を継続的に提供し、顧客満足の
向上と信頼を獲得します
- 4 環境に及ぼす影響を的確に把握・評価し、環境負荷の
低減に努めます。
- 5 上記1から4までの活動を全員参加で行うとともに
継続的改善を目指した活動とします。

2022年4月1日
三菱ガス化学株式会社
執行役員 四日市工場長

松見 恵明

RCとは「レスポンシブル・ケア (Responsible Care)」は、化学物質の開発から製造、流通、
使用、最終消費を経て廃棄に至る全ライフサイクルにわたって、「環境、安全、健康」
を確保し、事業活動を地球環境の保護に調和させる自主管理活動です。

 三菱ガス化学株式会社

RC品質活動計画

事業所基本方針： 事故ゼロ・災害ゼロと環境保全

事業所管理目標： 事故ゼロ・災害ゼロの達成（完全無災害の達成と物損事象の削減）、安全性の向上（危険ゼロ）の取組推進、環境管理の徹底（GHG、PRTR、廃棄物削減）

	基本方針	2022年度RC活動計画 (MGC)	活動目標 or 計画	具体的実施事項
労働安全衛生 ／ 保安防災	操業における健康と安全の確保	労働安全衛生および保安防災目標を達成するため、以下の項目を考慮し、各事業所での課題に合わせ安全作業・安定運転を目指した効果的な活動を推進する。	(1)ヒューマンエラー撲滅の推進	(1)-1 現場での事前 KY 励行、作業前の安全確認の励行 (1)-2 設備引き渡し時の確認方法の明確化 (1)-3 職場の情報と認識共有；手順書（基準・標準・OPLS）へのノーホワイの織り込み。現場設備の見える化の実施。 (1)-4 組織診断の実施と診断結果に基づく対応の展開。 (1)-5 ヒューマンエラー対策教育（ハザード気づき教育、体験教育、安全講話、月次安全集会）の実施。 (1)-6 類似災害の再発防止と水平展開活動（IAHD）の展開
		(1)自律的な安全活動 (2)類似労働災害、ヒューマンエラー防止 (3)協力会社の労働災害削減支援 (4)自主的な保安活動 (5)MGC 保安防災ガイドラインおよび MOSMS 診断などの評価ツールを活用した改善活動 (6)MGC スマートファクトリーの実現、新技術の導入	(2) 漏洩現象の撲滅につながられる、取り組みの展開（生産設備の保全の強化、日常的・計画的設備管理）。	(2)-1 設備保全の不具合課題抽出と課題解決の策定と具体の展開（保全対象の優先順位付けを含む） (2)-2 設備機器の点検の充実（CUI 調査、FCR 検査の実施） (2)-3 日常的設備管理の強化（異常の早期発見と対処） (2)-4 必要な設備仕様（技術基準）の明確化 (2)-5 設備管理資料の最新版化（P&ID、機器リスト等） (2)-6 漏洩防止活動の推進（情報共有、スポット放送等） (2)-7 MGC 保安防災ガイドライン、MOSMS ツールの活用 (2)-8 類似災害の再発防止と水平展開活動（IAHD）の展開 (2)-9 自主保全教育の実施(電装、回転機、静機器) (2)-10 委託業務の把握と手順の見直し及び、手順書の改訂。 (2)-11 新規作業及び非定常作業時の RA 実施と KY シート活用による危険予知の実施
	現場における保安と安心の確保	(7)保安防災上の危険源の特定および安全を担保する対応（自然災害含む） (8)教育・訓練	(3)協力会社への関りの強化と、安全組織活動体を通じた、労働災害防止への取り組み継続。	(3)-1 現場での事前 KY 励行、作業前の安全確認の励行 (3)-2 各部署での現場ミーティングへのオブザーバー参加（安全教育等を含む） (3)-3 構内協力会社との定期情報共有会議（定例会、各分科会）の運営、職場安全会議へのオブザーバー参加による安全の認識共有の推進。 (3)-4 YFY 安全衛生協力会各分会活動を通じた労災撲滅の取り組み。 (3)-5 安全衛生協力会のあるべき姿の検討（体制の見直し）
			(4)確実な安全保安防災に及ぶそのための教育・訓練の展開	保安防災上の危険源の特定および安全を担保する対応 (4)-1 中災防による組織診断と必要な安全教育・講話の開催 (4)-2 工場に適用される法令教育 (4)-3 層別教育（若手層、中堅層、管理者層）の展開 (4)-4 協力会社を含めた階層別教育のプログラムの見直し

	基 本 方 針	2022 年度 RC 活動計画 (MGC)	活動目標 or 計画	具体的実施事項
			(5)プロセス RA 実施による安全性向上の推進	(5)既存プロセスの HAZOP の実施（過水、ヒドラジン、超純過水、ボイラ）
			(6)MGC スマートファクトリーに向けた取組の推進	(6)S-FACTORY による工場スマート化の推進 図面管理ソフト(Bluebeam)の活用、回転機振動解析、業務の自動化(RPA)導入
			(7)自然災害への必要な準備体制の構築	(7)-1 最新版ハザードマップの確認と設定済み対応策の健全性確認。 （具体的行動指針とタイムライン） (7)-2 緊急避難、緊急連絡、緊急呼出し体制の機能確認（通報訓練等）
			(8)安全・安定操業への各種会議体の運営	(8)安全衛生検討会、安全推進者連絡会、職場安全推進員連絡会、LINK 活動チーム会議、トラブル削減会議、安全衛生委員会、製造-工務連絡会等
環境保全	環境負荷の削減と持続可能な社会発展への貢献	以下の項目に関する Grow UP 2023 KPI および環境保全目標を達成するための各種活動を推進する。 (1)地球環境問題への取組み	(1) GHG 原単位の改善・GHG 排出量の削減	(1)-1 省エネ機器への置換、トラブル削減によるムダの削減 GHG 排出原単位 2013 年度比 2023 年度目標：19.9%削減 GHG 排出量 2013 年度比 2023 年度目標：28.0%削減 ・IA リーク低減、高効率化機器への置き換え等 (1)-2 再生可能エネルギーの導入の調査検討
		GHG 排出削減(低 GHG 排出係数電力、再生エネルギーの導入などを含む)、廃棄物削減、水資源保全、生物多様性保全	(2) ゼロエミッションの達成継続	(2)-1 廃棄物の分別徹底、およびリサイクルの推進 廃棄物排出量 2019 年比 3%削減 廃棄物ゼロエミッション率 2023 年度目標：0.3%以下 (2)-2 廃棄物の処理委託先の探索と廃棄物の有価物化への取り組み推進
		(2)地域環境問題への取組み	(3) PRTR 物質の排出量の削減	(3)-1PRTR 物質の排出量の削減テーマを立ち上げ検討着手 PRTR 原単位 2019 年基準 10%削減 (3)-2MOC と協業し、大気移動量の実態把握の検討支援を行う。
		環境に影響を与える要因の継続的改善（大気、水質、騒音、振動、臭気、PRTR 等）	(4) 工場としての生物多様性保全への取組み	(4)-1 工場クリーンデーの取組み継続 (4)-2 生物多様性保全に関する認識向上（講演会の開催）

	基 本 方 針	2022 年度 RC 活動計画 (MGC)	活動目標 or 計画	具体的実施事項
化学品・製品安全	化学品の 取扱・使用・廃棄に おける安全の確保	化学品・製品安全目標を達成するため、自主的な化学品管理の遂行と並行して国際的な管理の仕組みに対して適切に対応する。 (1)各審査を通じた開発物質・製品の安全性評価 (2)取扱い製品に適用される法改正への適切な対応 (3)取扱化学物質に関する安全教育の実施 (4)各国の化学物質管理法規情報の収集および登録制度への対応 (5)国内外の法規に対応した SDS 作成システムの活用および顧客への適切な交付	(1)新規開発品における安全性評価	(1)-1 実験前リスクアセスメント、事前安全性チェックシートの活用 (1)-2 新規開発品の評価の実施（適用法令、有害性、SDS 作成）。 (1)-3 上市審査の手続きの実施。
			(2)取り扱い物質の安全情報の収集と教育	(2) 開発品に対する取り扱い物質の安全教育の実施
物流安全	原料・製品の物流における安全の確保	物流安全目標を達成するため、以下の項目を考慮し、抜け漏れの無い安全管理体制の確立を推進する。 (1)物流上の事故、労災等の解析 (2)充填荷役における労働安全、保安防災 (3)監査やアンケートを通じたグループ物流会社との対話強化 (4)保安協定書の締結率向上	(1)輸送部会活動推進（物流事故、労災等の削減）	(1)輸送部会を通して、物流事故、労災等の原因解析、認識共有と再発防止の為のトラブル防止活動（水平展開）を展開し、発生率の低減を図る。2022 年度ローリー輸送トラブル実績値 0.08%以下を目指す。
			(2)小分充填・荷役に関する労災、事故・異常の削減	(2)充填荷役 LINK 会議体の運用と構内作業に関する協力会社との会議体の設立検討。
			(3)バルク製品納品先についての保安協定書の見直し改定、及び締結の推進	(3)締結済み案件；内容と現状との相違の有無の確認。 新規納品先；営業を通じ、保安協定書締結を都度確認。
社会との対話	ステークホルダーからの信頼醸成	社会との対話目標を達成するため、以下の項目を推進する。 (1)統合報告書、事業所環境安全報告書、ホームページの充実 (2)RC 地域対話、見学会など対話機会拡大の推進 (3)社外からの評価受審	(1)工場環境安全報告書（サイトレポート）の発行継続	(1)YF 環境・安全レポートの発行（2022 年版）
			(2)社会・環境への貢献活動への参加と地域社会との対話の推進	(2)-1RC 地域対話への参加（2020-2021 年度から延期） (2)-2 地域活動・行事への積極的関与（参加） (2)-3 四日市コンビナート地域防災協議会及び四日市地域環境対策協議会を通じた活動の連携
			(3)外部（ISO、顧客）からの審査の受入れと受審	(3)審査の受審と指摘事項への建設的な対応の実施

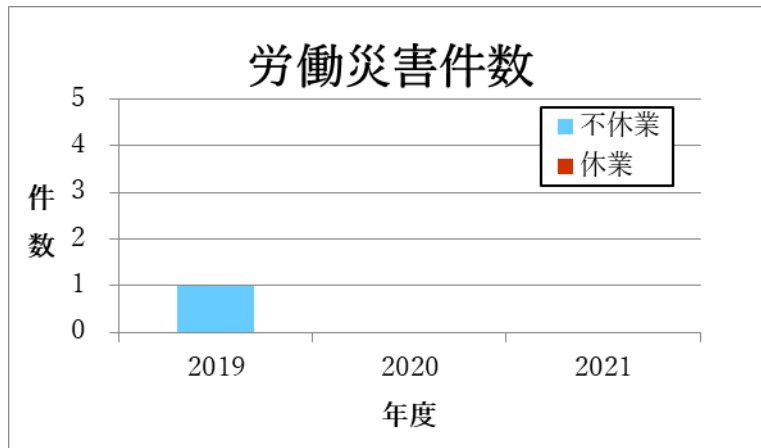
	基 本 方 針	2022 年度 RC 活動計画 (MGC)	活動目標 or 計画	具体的実施事項
RC 全般	MGC グループとしての環境・安全活動の推進	MGC グループの事故災害情報の共有や MGC グループ環境安全推進協議会、MGC グループ環境安全監査等を通じ、一体感を持った環境安全・保安防災活動を推進する。	(1)YF 以外の災害情報（グループ会社、四日市コンビナート地域協議会、各種団体）の情報展開	(1)各種の災害情報の共有と、必要な水平展開活動の推進。
	環境・安全管理システムの継続的改善	環境安全会議、環境保安室長会議、LINK リーダー会議、RC 監査等により RC 管理システムの継続的改善を図るとともに、RC 活動を通じ人材の育成を図る。	(1)全社的な環境安全関連会議体、YF 内の安全管理組織会議体の横串機能の連絡会、監査結果情報等の共有	(1)-1YF の安全管理体制組織の運営に関して、既存の活動に固執せず、新たな取り組みや工夫の導入検討の推進 (1)-2 LINK リーダー会議、他工場 RC 監査や安全衛生委員会等へのオブザーバー参加を通じた情報交換の推進
品質	リーダーシップ	品質マネジメント実施計画の推進	各階層のリーダーによる品質マネジメント活動の推進	RC 品質委員会の充実・オーナーシップ啓蒙（品質保証課）
				業務内容に応じたオーナーシップ向上活動
	顧客重視	「納入仕様書の締結に関する規則」「製造委託に関する管理規則」「仕入販売に関する規則」に基づいた活動推進	納入仕様書のリスト管理の見直し	事業部のサポート
			DB(データベース)の導入	事業部のサポート
			委託先・仕入先のリスト管理と監査計画の立案、実施	最新版管理 委託先・仕入先の品質改善支援
		確実な変更管理の実施	変更管理手順の構築、見直し、適切な段階でのレビュー	確実な実施のための啓蒙
	人々の積極的参加	品質保証に係る人材の育成	階層別品質教育の実施・受講	品質教育の計画、実行（品質保証課）
			自部門の品質保証に関する教育の実施	品質教育の計画、実行
		「品質保証に関する情報伝達及び意見集約の手順」に基づいた活動推進	定期的な品質会議の実施と内容の充実	無機化学品・光学材料・電子材料・合成樹脂・基礎化学品とのコミュニケーション（品質保証課）
	プロセスアプローチ	「製造物責任管理規程」に基づいた活動推進	PL 事故対応時の役割確認	PL 教育の受講 対応の確認と文書化（品質保証課）
			品質に関わる業務フローの作成、見直し	定期見直し、及び、改善実施
	客観的事実に基づく意思決定	品質保証・品質管理に関わるシステムの導入と活用	品質データ集約システム（Lab-Aid）の導入と活用	Lab-Aid 実運用と導入第 2 期に向けた改善案の集積 システムの理解と適正評価（品質保証課）
			JMP/QIMS/StatWorks の活用	システムの理解と教育の計画、実行

	基 本 方 針	2022 年度 RC 活動計画 (MGC)	活動目標 or 計画	具体的実施事項
	改善	品質クレーム・トラブルの是 正と再発防止	品質クレーム・トラブ ルの是正と再発防止	未解決事案の速やかな完了
				潜在原因を含めた追及と是正
		品質に関わる業務の継続的 な改善	品質に関わる共有・指 摘された情報・事例の 活用	品質向上会議の充実（品質保証課）
	関係性管理	MGC グループ品質マネジメ ント推進協議会会則に基づ いた活動	関係会社の品質監査 ／連絡会議	※工場非該当
		物流トラブルの情報収集、是 正と再発防止	出荷後の品質クレー ム・トラブルの対応、 是正・予防処置	業務 G [YFY]、管理 G [YFN]、生産管理課 [YFS] ／過去発生事例 の解析と、そこから得た教訓の水平展開・予防処置実行

労働安全衛生

■安全成績

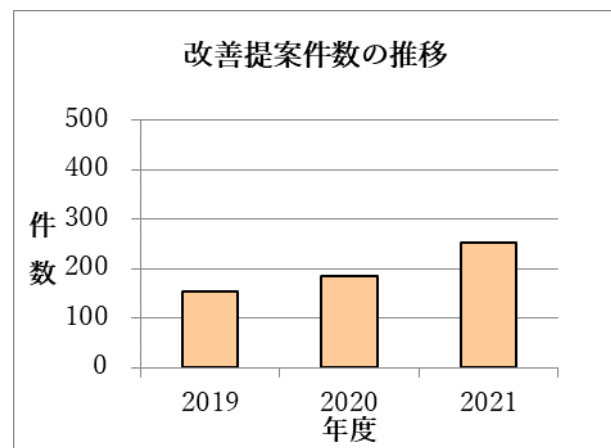
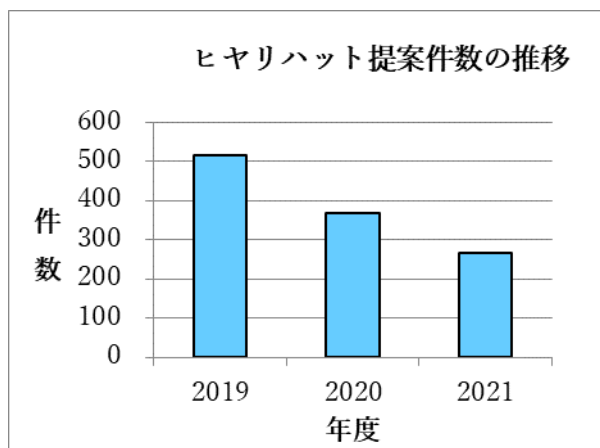
四日市工場（浪速製造所、佐賀製造所を含む）の安全成績は以下のとおりで、2009年以降、休業災害は発生しておりません。これからも無災害継続を目指して、5S活動、危険予知訓練（KYT）、ヒヤリハット提案活動及び指差呼称など日常的な安全活動に取り組んでいきます。



- ※ 休業とは、「負傷または疾病の療養のために被災日の翌日から休業せざるを得ないような労働災害」のことを指します。
- ※ 不休業とは、「業務遂行中に業務に起因して受けた負傷又は疾病によって、医療機関（事業所内の診療所等を含む）で医師の手当てを受け、被災日の翌日以降1日も休業しなかった労働災害」のことを指します。

■ヒヤリハット提案活動と改善提案

四日市工場、浪速製造所及び佐賀製造所では、全員参加の取り組みとして安全に関する感性の向上を目指したヒヤリハット提案活動を推進しています。そして提案されたヒヤリハットに基づいて、職場環境や作業環境の改善に繋げるように取り組んでいます。



■ T P M活動の推進

2022年度は1期(3年目)の活動となります。4月1日付で岩井工場長が異動となりましたが、T P Mキックオフから約3年の間に、T P M活動の基盤を築くことができました。4月1日からは、松見工場長にバトンタッチ。今年度は佐賀製造所もT P M活動に加わりサークル総数は34となり、全サークルを対象に工場長によるT O P診断が実施されました。

佐賀製造所では、現在、超純過酸化水素製造設備の増設計画が進められており、人員、設備、生産量ともに拡大することから、今後は、T P Mコンサルタント指導会も活用し、安定運転を維持する操業、業務の効率化などの活動を進めていくこととなります。

今期の反省点としては、新型コロナウイルスの影響により、昨年と同様T P Mコンサルタント指導会がオンライン開催となり、現場活動の取り組みについて現物で確認することができなかったことです。また、日程の都合によりT P M発表会が中止となり、急遽、録画形式による発表会に変更となりました。録画形式のT P M発表会は、プレゼン者の様子や質問ができないなど、現場の状況、雰囲気が伝わりづらい一方で、各サークルのプレゼン資料が大変見やすく、説明が聞き取りやすい等良かった点もありました。今回のT P M発表会は、どのサークルも活動内容がレベルアップしていることもあり、松見工場長の表彰総括では、「各サークルがそれぞれの職場の状況で、自ら考え、目標設定し、活動し、その進捗を確認し、粘り強く活動を継続してくれたこと」に対し感謝が述べられました。



2022 年度 工場長賞：サークル名「静機器サークル」(工務部)

写真左：受賞サークル代表、写真右：工場長

■来年度のT P M活動について

2023年度は、2期目の活動に入ります。1期目は、準備や活動の大まかな流れを把握するための助走期間だったかと思います。2期目からは、各部課の組織管理方針からどの業務に弱点があるのか把握し、改善に繋がられるTPM活動を推進していきます。

現在、四日市工場では再構築構想に向けた計画を進めています。2022年度は、CD-1（アダマンタン誘導体）プラント、ホルマリンプラントの停止、2023年度にはPOMプラントの停止があります。他方で佐賀製造所における超純過水設備の増設など新規プロジェクトも進行しています。

四日市工場は、スクラップ&ビルドでこれから繁忙期を迎えようとしています。そのような大きな環境変化に対応するためにも、今まで行ってきた業務からの脱却、新しいデジタル技術の活用による業務の効率化など沢山のアイデアを出し合い、四日市工場再構築に向けたTPM活動に行きたいと考えています。2期目は、改めて従業員からTPMスローガンを募集する予定です。

保安防災

■防災訓練

万が一、事故が発生した場合に備えて、協力会社と連携して火災想定及び地震想定での防災訓練を実施しています。

【四日市工場】



【佐賀製造所】



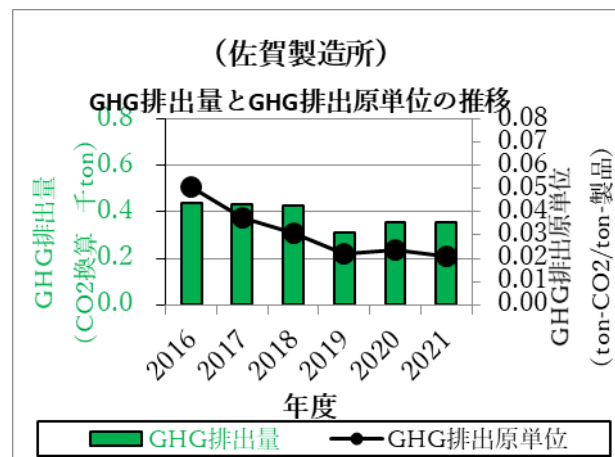
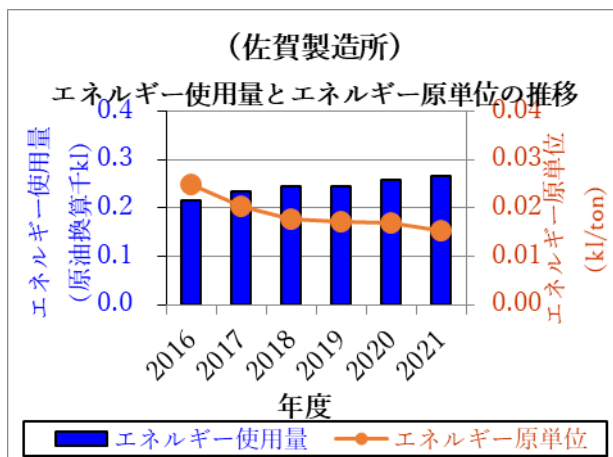
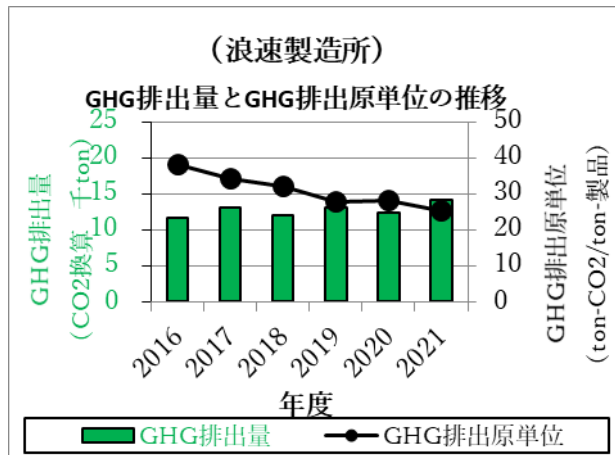
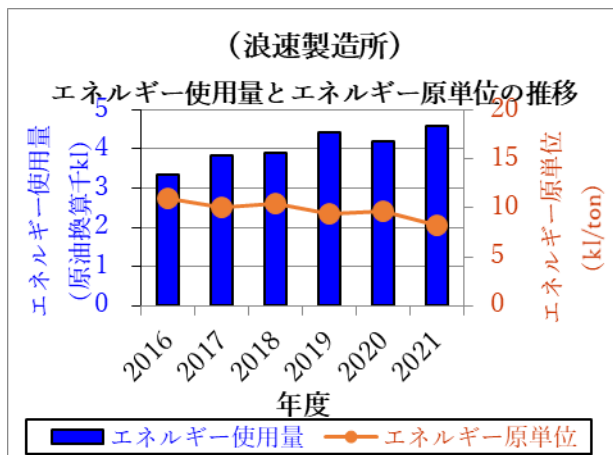
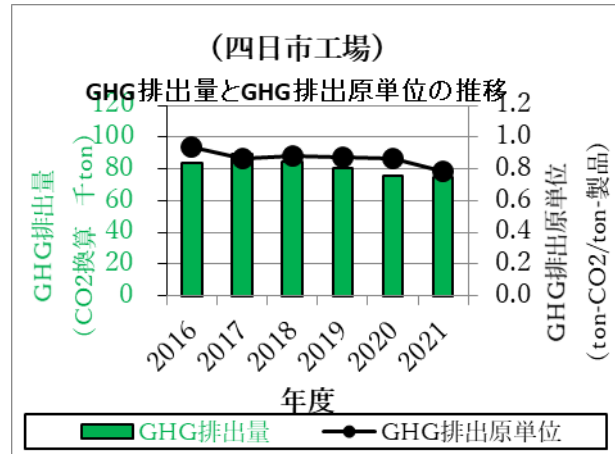
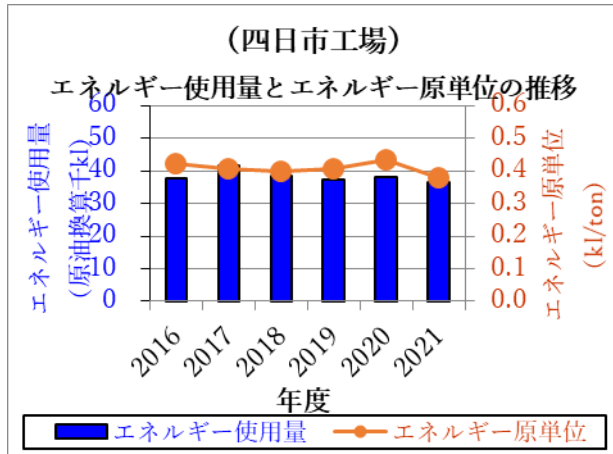
■緊急時対応訓練

各部署では、自部署内で想定される緊急事態に対する対応手順を作成しており、その手順に基づき緊急時対応訓練を実施しています。

環境保全

【地球温暖化防止の取り組み】

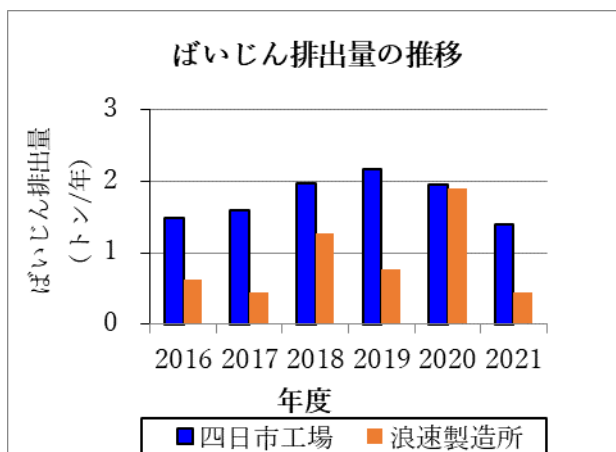
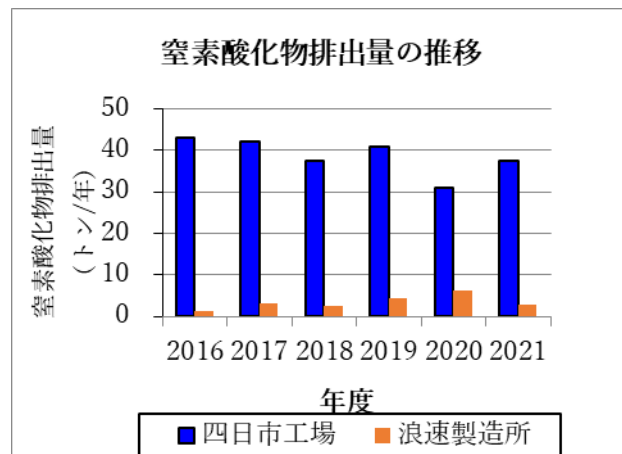
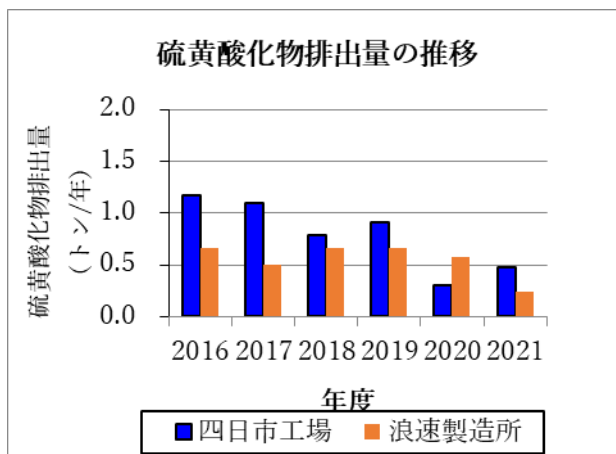
使用エネルギー及び排出温室効果ガス（GHG）の原単位低減に向けた取り組みとして、A重油から都市ガスへの燃料転換、照明のLED化及びエアコン等更新に伴う特定フロアから代替フロアへの切り替えに取り組んでいます。



- ※ エネルギー原単位とは、「製品 1 トンを作るのにどのくらいのエネルギーが必要となるかを示す指標」のことを指します。
- ※ GHG排出原単位とは、「製品 1 トンを作るのにどのくらいの二酸化炭素等の温室効果ガス（GHG：Greenhouse Gas）を排出しているかを示す指標」のことを指します。

【大気への排出】

四日市工場では、過去にメインボイラー設備で使用していた燃料を石炭から都市ガスに転換したことに伴い、硫黄酸化物、窒素酸化物及びばいじんの排出量を大幅に低減しました。現在、定期的に各物質の排出状況を測定監視しながら、設備の維持管理に努めています。

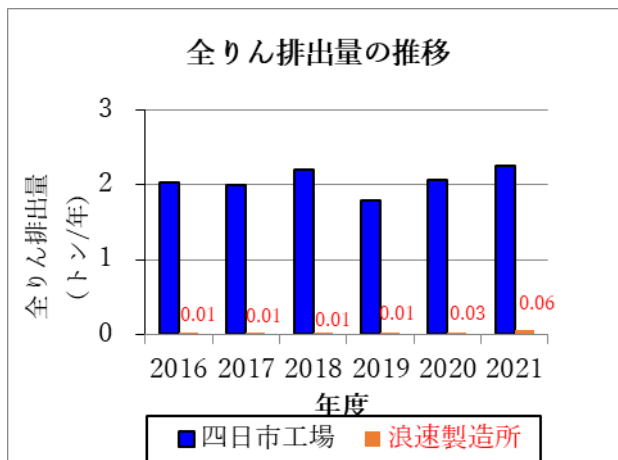
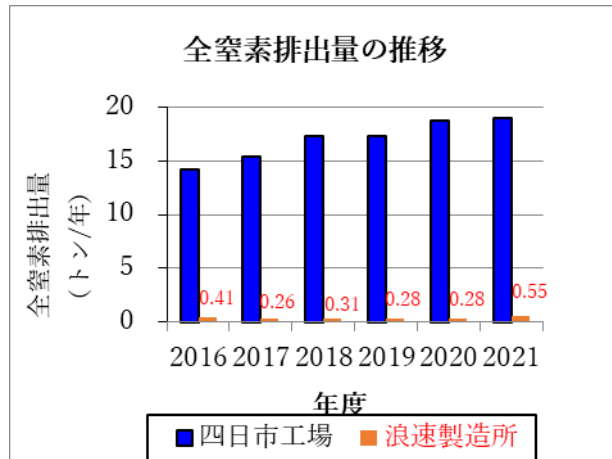
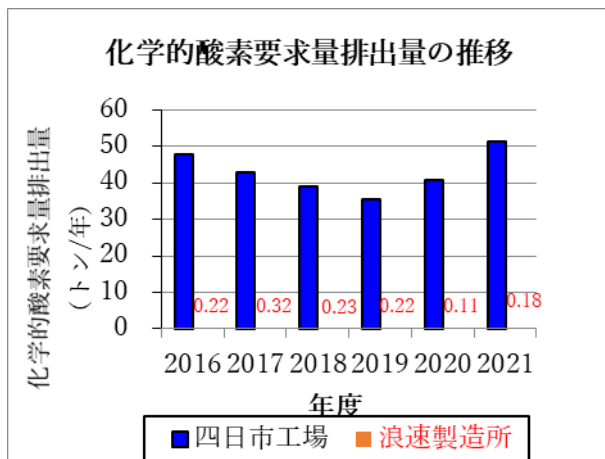


- ※ 佐賀製造所には硫黄酸化物、窒素酸化物及びばいじんを排出する施設はありません。
- ※ 「P R T R 排出量等算出マニュアル」の留意事項「定量下限値未満の場合には、定量下限値の 1 / 2 とみなして算出」に基づき、2016 年度より四日市工場データの計算方法を見直しました。
- ※ 硫黄酸化物（ SO_x ）とは、「石油や石炭など硫黄分が含まれる化石燃料を燃焼させることにより発生するものであり、大気汚染や酸性雨などの原因の一つとなる物質」のことを指します。
- ※ 窒素酸化物（ NO_x ）とは、「空気中で石油や石炭等の物の燃焼、合成、分解等の処理を行うとその過程で発生するものであり、大気汚染や酸性雨などの原因の一つとなる物質」のことを指します。

- ※ ばいじんとは、「石炭や石油系の燃料の燃焼に伴い発生するすす等の固体粒子」のことを指します。

【水域への排出】

四日市工場では、化学的酸素要求量、全窒素及び全りんの河川への排出量を毎日測定・監視しています。また四日市工場では活性汚泥処理施設を設置しており、微生物による分解処理を行うことにより工場排水の環境負荷低減に大きく寄与しています。

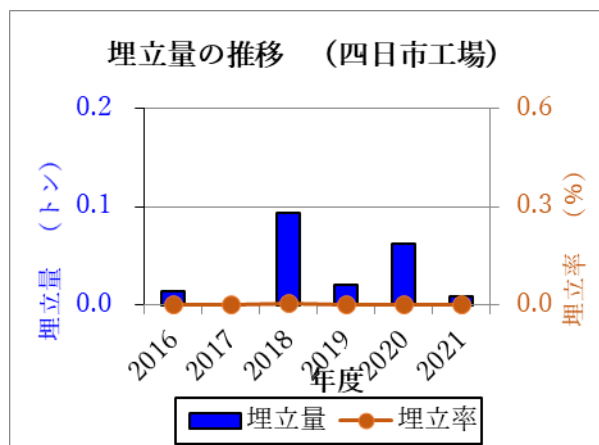


- ※ 浪速製造所からの各排出量は少ないため、グラフ上に数値を記載しています。
- ※ 佐賀製造所からの化学的酸素要求量、全窒素及び全りんの排出はありません。
- ※ 化学的酸素要求量（COD）とは、「海水や河川の有機汚濁物質等による汚れの度合いを示す数値」のことを指します。
- ※ 全窒素や全りんとは、「水の富栄養化の程度を表す指標」のことを指します。

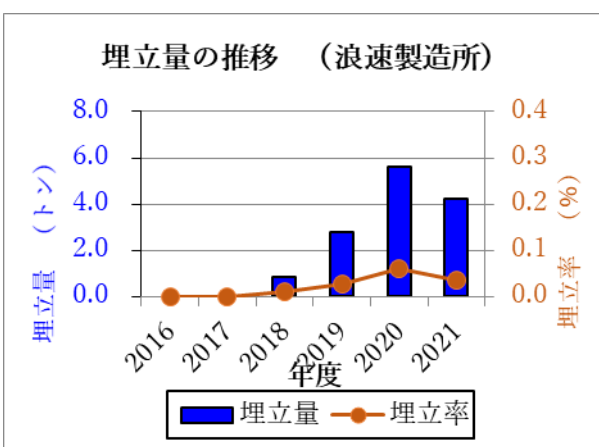
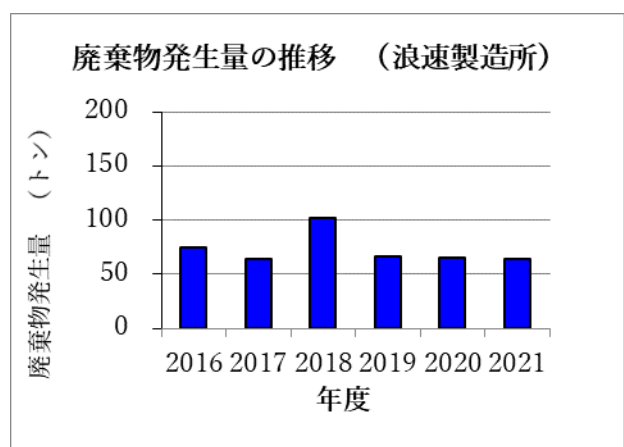
【廃棄物の排出】

四日市工場、浪速製造所及び佐賀製造所から排出される産業廃棄物の埋立率は2013年度からゼロエミッション（埋立率0.3%以下）を継続しています。

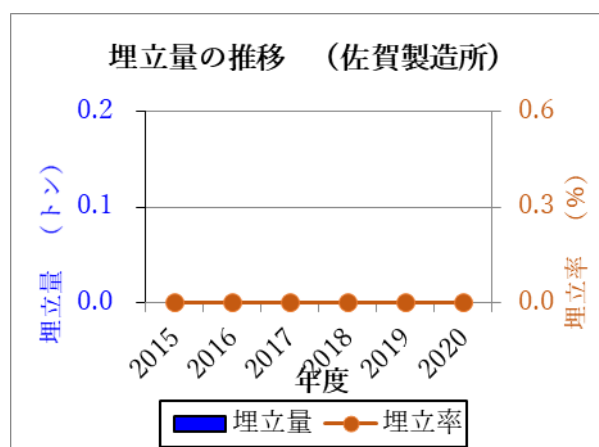
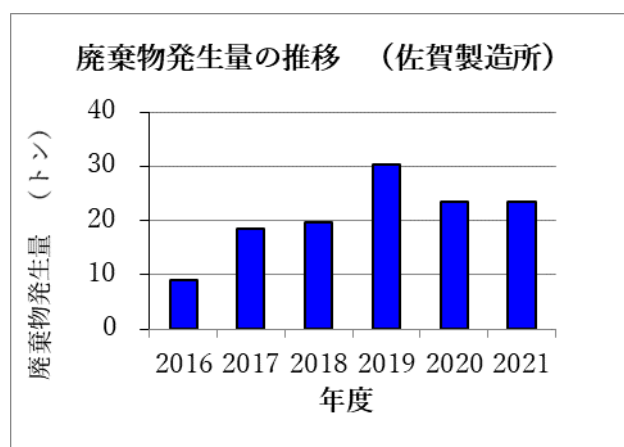
＜四日市工場＞



＜浪速製造所＞

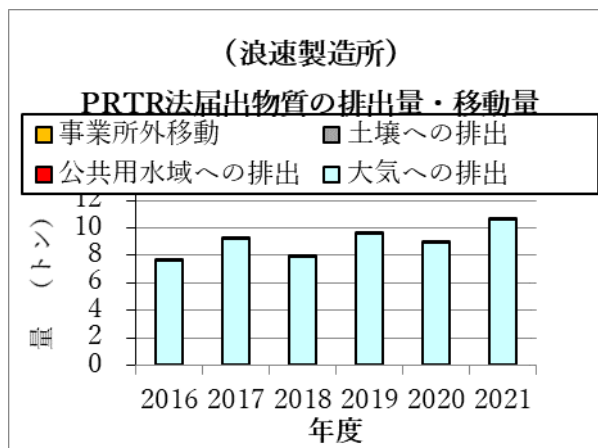
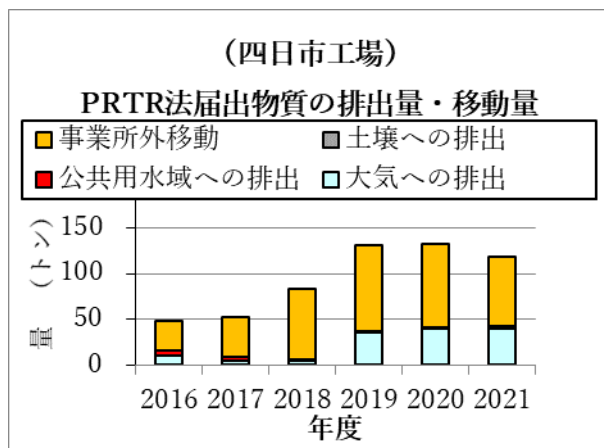


＜佐賀製造所＞



【P R T R 法対象物質の排出】

P R T R 法に基づき、工場から環境（大気、水、土壌）に排出される量及び廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量の集計結果は以下のとおりです。



※ 佐賀製造所ではP R T R 法対象物質の排出はありません。

※ P R T R（化学物質排出移動量届出制度）とは、「有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組み」のことを指します。

地域の皆様とともに

■工場周辺清掃

毎月20日ごろに、従業員及び協力会社社員の協力を得て、工場周辺又は工場敷地内の一斉清掃活動を実施しています。



■交通安全街頭指導



小学生の通学路になっている交差点で、コンビニートの近隣2社と共に、毎月1回交通安全街頭指導を行っています。



〒510-0886

三重県四日市市日永東2-4-16

三菱ガス化学株式会社 四日市工場

環境保安室 TEL 059-345-8808

FAX 059-347-0799